

図書教材新報

Books
teaching
materials
magazine

Vol.256

今月の特集

①教材活用シリーズ

『算数ドリル』を生かした「数学的な見方・考え方」を育む授業づくり

(P. 4～5)

図書教材新報
Books teaching materials magazine

2026.8.25 Vol.256 (total 1885号)
1956年1月5日 創刊 毎月25日発行

シンガポールの「ハイブリッド型」モデル

一般社団法人日本図書教材協会副会長
広島大学名誉教授
UMAP(アジア太平洋大学交流機構)アンバサダー

二宮 皓



シンガポールのデジタル教科書は、2028
～30年までに開発・実装される計画となつて
おり、教科書の在り方に関する基本的考え方も
明確化されている。小学校(義務教育)ではす
べて「紙の教科書・教材」、中学校では基本は
「デジタル教科書・教材」(人文教科、数学など)。
教科書はすべて「有償」である。なお共通語で
ある「英語」についてはいわゆる「教科書」は
ない(中国語・マレー語等の母語にはある)。
高等学校では「教科書」は使われない。
プラットフォーム「SLS」の重要性

「教材」はデジタル化され、国のプラット
フォーム(Student Learning Space、以下SL
S)で提供されている。国の教育課程(シラバ
ス)準拠教材である。教員はSLSを活用して
授業計画を準備し、授業を行う。教員の専門職
性が尊重される。個別最適化、自動採点・応答
システム、データ駆動などのテクノロジーはす

べてこのSLSに組み込まれている。

この仕組みこそが、「ハイブリッド型」とい
われるもので、「紙の教科書と紙の教科書に準
じた教材(コースブック、生徒用ジャーナルな
ど)」と「SLSに掲載されるデジタル教材」
のハイブリッド活用を指す。特に数学の場合は、
出版社のプラットフォームで提供され(アクセ
ス権の購入)活用される。

教員研修とe-pedagogy

ハイブリッド型教科書・教材を適正かつ効
果的に活用するためには、教員の養成と研修
が「鍵」であり、研修なくして「教員の専門職
性尊重」は成立しないと考えられている。年間
100時間の研修(コース受講、校内研修、オ
ンラインコース研修など)が義務付けられてい
る。その内実を支えるのが、国立教育研究所が
研究・構築してきた「新しいデジタル化時代の
教授学(e-pedagogy)」である。

◆学校用教材と生成AIについて 協会HPに考え方・FAQを掲載

生成AIの技術が身近になり、日図協加盟出版社の教材を生成AIに読み込ませてよいなどの学校等からの問い合わせが増えており、そのなかには著作権侵害のおそれがあるケースも含まれている。それを受けて、協会HPに掲載している著作権の考え方、FAQに、生成AIに関する内容について次の通り追加した。

Q. 教材を生成AIに読み込ませて、解説や補充問題、別の教材を作成してもいいですか？

A. 教材を生成AIに読み込ませて、その内容を基に別の教材や補充問題を作成することは、教材出版社の商品である教材の利用を代替し、その流通や利用を阻害するなど、著作権者の利益を不当に害するおそれがあります。また、生成AIによる生成物が、もとの教材の構成や設問等と類似した内容となる可能性もあります。そのため、原則として認められないと考えています。



*協会HPでは、その他にも学校用教材と著作権について掲載しております。

熊本地震に関する 全国協としての支援について

全国図書教材協議会では、地震発生直後から加盟出版社の協力のもと、被災会員販売店の安否や被害状況について情報収集・共有を行ってきました。

現在、会員販売店の事業所被害の報告は3店（半壊1店、一部損壊2店）上がってきており、被災会員販売店支援のために次の対策を進めています。

○加盟出版社による滅失教材の提供対応
日図協・全国協加盟出版社では、学校等からの要請に応じて滅失教材の提供対応を行います。

○全国協「災害見舞規程」に則った見舞金の送付
全国協「災害見舞規程」に則った見舞金（1販売店2万円）を販売店からの申請に応じて協会長を通じて送付します。

今後、被災状況によって「全国災害復興支援制度」の適用などを検討していく予定。

生徒に支援。先生に時短。

AI学習支援×テスト作成×電子書籍

YALOT

やろっと!



※正進社の主要ワークに無料で付属します。

正進社
SEISHINSHA

7月15日

日 中学校営業部長会を開催

中学校営業部長会（幹事長・杉山陽介正進社営業部長）では、第5回部長会を「協会会議室」で開いた。

当日は、ブロック中学部会長との協議会の検討事項として、教材採用に影響があった地域における調査について協議し、調査目的を整理した上で進めていくこととした。

また、みらいの学びプロジェクトやブロック中学部会長からの要望事項について協議した。全中メルマガや全中目安箱の今後の運用方針について確認し、それぞれ全中目安箱運営委員会に提案することとした。



中学校営業部長会

7月16日

日 小学校編集部長会を開催

小学校編集部長会（幹事長・矢田恵理子日本標準取締役企画編集部マネージャー）では、第9回部長会を「協会会議室」で開いた。

会議では、教著協との協議、共同許諾申請、教育行政の動向や教材の在り方、生成AIへの

対応、教材の複製や公衆送信に関する問い合わせへの対応、広報活動、校務支援・

採点支援システムへの対応、日本教材学会との連携等について状況確認と検討を行った。

7月22日

日 小学校営業部長会を開催

小学校営業部長会（幹事長・森田祐樹日本標準営業部マネージャー）では、第5回部長会を「協会会議室」で開いた。

当日は、各地での自治体採択デジタル教材の動向、ブロック小学部会長からの要望事項等について情報交換や協議を行った。



小学校営業部長会



小学校編集部長会

1年間の総復習がこの一冊で完成！



がっちり シリーズ

1年のふり返し 各5教科
2年のふり返し

定価(税込)各380円
A4判 カラー 32ページ
縮刷型詳解書・実力テスト・解答用紙
教師用CD-ROM

信頼をつちかい 学びで未来をひらく
株式会社 浜島書店

〒466-8691 名古屋市昭和区阿由知通2-1-1
TEL 052-733-8040(代) FAX 052-733-8977

<http://www.hamajima.co.jp/>

教材活用シリーズ 第191回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

『算数ドリル』を生かした
「数学的な見方・考え方」を育む授業づくり

―「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践から―

(株)教育同人社
『算数ドリル』



しもむら さとし
下村 怜史

(埼玉大学教育学部附属小学校)

1. 数値や問題配列が工夫された『算数ドリル』の活用

学習指導要領では、児童が「数学的な見方・考え方」を働かせながら、自ら問題を見だし、友達との対話を通して考えを深めていく「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。そのためには、教師が知識や解法を一方的に伝える授業から、児童が問いをもち、自ら考え、互いの考えを比較・検討しながら理解を深めていく授業への転換が重要です。

ドリルは、計算技能の習熟や反復練習に用いられることが多い教材ですが、教材研究を通して問題に含まれる数学的価値を読み取ること、児童の思考を促す教材としても活用できま

す。数値や図形の特徴を生かした問題を授業の中心に据えることで、児童の「なぜだろう」「確かめたい」という問いを引き出し、主体的な探究や対話を通じた深い学びへとつなげることができます。

本稿では、そのような視点から、既存のドリルとは異なり、数値や問題配列が工夫された『算数ドリル』を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現した2つの授業実践を紹介します。

乗法のきまりを探究する授業

―第3学年の実践―

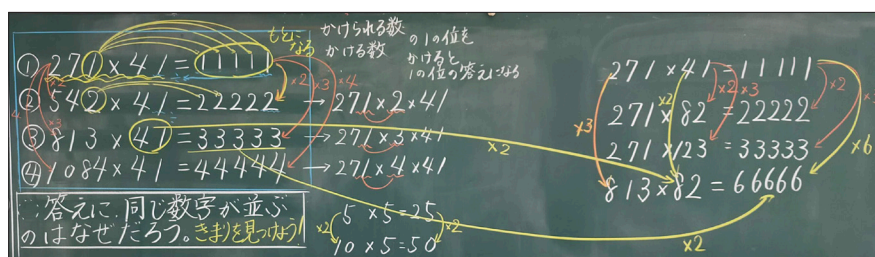
第3学年では、乗法のきまりについて考察する学習場面で算数ドリルの「積に同じ数字が並ぶ問題」を活用しました。この実践では、計算

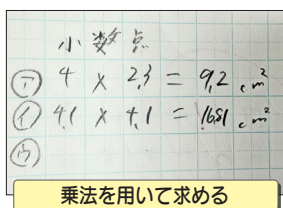
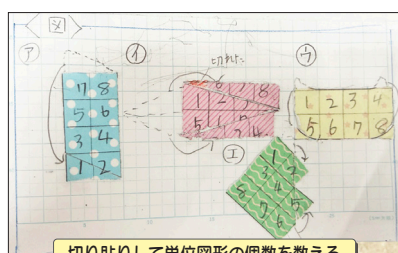
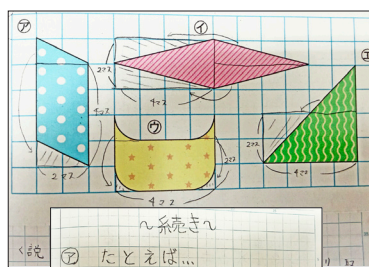
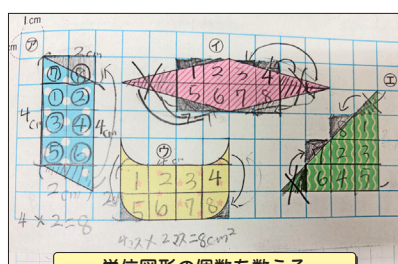
問題として扱うのではなく、問題に潜む規則性を見いだす数学的活動として授業を構成しました。

導入では、算数ドリルの問題を基に、乗数を41にそろえて積に同じ数字が並ぶ4つの計算式 $(271 \times 41, 542 \times 41, 813 \times 41, 1084 \times 41)$ を提示しました。児童からは「答えに同じ数字が並ぶのはなぜだろう」といった疑問が自然に生まれ、学習課題が児童自身の問いへと発展していきました。

その後、児童は自分で計算しながら数量の関係を調べ、「かけられる数が2倍、3倍になると積も2倍、3倍になる」という性質に気付きます。しかし、「本当にいつでも成り立つのだろうか」という新たな疑問も生まれ、友達と具体例を示しながら考えを交流する姿が見られました。

教師は児童一人ひとりの考えを板書で整理し、異なる考え方を比較できるよう支援しました。その結果、児童は友達の考えを取り入れながら、自分の考えを修正したり根拠を明確にしたりすることができ、乗法の原理や法





則について理解を深めました。
さらに、自分たちでできまりが成り立つ問題を作成し、互いに検証し合う活動では、発見した法則を一般化しようとする姿が見られました。振り返りにも「他にも同じできまりがあるか調べたい」といった記述が見られ、主体的な探究へと学びが広がっていました。

単位図形に着目した面積学習

第4学年の実践

第4学年では、「オリジナルシールを作ろう」という算数ドリルの問題を授業の中心に据え、

多様な図形の面積を考える学習を行いました。教師は公式を提示するのではなく、「どうすれば求めやすくなるだろう」という問いを投げかけました。児童は、1辺1cmの正方形という単位図形に着目し、図形を分解したり移動したりしながら、既習の長方形へ帰着させる方法を考えました。

全体交流では、等積変形だけでなく、図形を2倍にして考える倍積変形など、多様な考え方が発表されました。児童は友達の説明を聞き、「その考え方も使える」「こちらの方が分かりやすい」と比較しながら理解を深め、多面的な見方・考え方を獲得していきました。

また、図形を変形した際に、隙間ができていたため面積が変わってしまう解答も見られました。その誤差を学級全体で共有し、図形の性質に基づいて変形する必要性について考えました。誤りも学びのきっかけとして生かされたことで、児童は根拠を基に説明することの大切さを実感していました。

適用問題では、自ら図形を作成し、その面積を求める活動に意欲的に取り組む姿が見られ、学んだ見方・考え方を新たな場面へ活用する深い学びへとつながっていました。

2. 2つの実践に共通する教育的な価値

両実践に共通しているのは、教師が算数ドリルに含まれる数学的価値を丁寧に読み取り、児童の問いを引き出す授業へと再構成している点です。教師がすぐに解法を示すのではなく、児童の発見や疑問を大切に

しながら思考を支えることで、主体的な学びが生まれていました。

また、友達の考えを比較・検討し、自分の考えを見直す場面が意図的に設定されていたことも共通しています。対話を通して多様な見方・考え方に触れることで、児童は知識を受け取るだけではなく、自ら根拠をもって説明し、理解を深める姿へと成長していました。

さらに、両実践とも、既習事項を活用して新たな課題を解決する学習過程が構成されました。児童は「できた」という達成感だけでなく、「なぜそうなるのか」を考え続ける楽しさを味わいながら、「数学的な見方・考え方」をより豊かに育んでいきました。

3. 実践の広がりに向けて

この数値や問題配列が練られた『算数ドリル』は、教師の教材研究や授業構成の工夫によつて、「主体的・対話的で深い学び」を支える教材へと発展させることができます。重要なのは、ドリルを反復練習の教材としてだけではなく、児童の問いや対話を生み出す教材として捉え直す視点です。

今回紹介した実践は、日常の授業のなかでも取り入れやすい工夫でありながら、児童が自ら問いをもち、考えを交流させ、理解を深める学びを実現しています。こうした実践が各学校で共有され、授業改善が積み重ねられることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりが一層広がっていくことが期待されます。

都道府県協会総会報告【1】

「①開催月日、②開催場所、③出版社(代表)と事務局などの出席者」

※ 7～8月に開催された各都道府県協会の総会の様子を3回に分けて報告します(出席会員数は10月号の「都道府県協会の総会をふり返って」でまとめて報告します)。

* * * * *

◆東京都小学校協会(岩崎裕彦会長)

学校での教材採用の尊重のための都議への働きかけについて報告

①7月19日、②千代田区「出版クラブビル」、③日本標準・森田祐樹営業部マネージャー、全図協・渡部竜士専務理事。

自治体が採択

したデジタル教材による教材採用の影響を受け、学校現場での教材採用の裁量が尊重されるよう、協会として東京都議へ働きかけを行った旨を報告。自主基準について意見交換。



東京都小学校協会

◆埼玉県協会

(日向哲郎会長、小林一成副会長)

各団体への支援事業、会員の親睦行事などを継続事業に

①7月21日、②

さいたま市「大宮ソニックシティ」、③全図協・渡部竜士専務理事。

次年度も「世界

の子どもにワクワク

ンを日本委員会」

への活動参加、小

学校合同新学期商

品説明会、会員の

親睦行事などを事業計画に。総会前に全図協・渡部専務理事による「次期学習指導要領の動向

+αと教材業界への影響・私たちの可能性」と

題した講演会を開催。



埼玉県協会

◆岐阜県協会(横井敏三会長)

役員改選、新会長に大野一幸氏

①7月22日、②岐阜市「じゅうろくプラザ」。

教師用書の公費化への対応のため、特別事業

委員会を立ち上げ。

役員改選を行い、新会長に大野一幸氏、小学

部会長に各務晋生氏、中学部会長に井畑慎一郎

氏を選任。

◆大阪府小学協会(向畑勇一会長)

総会前に講演会を開催

①7月22日、②大阪市「ホテルアウイーナ大

申し上げます

株式会社 正 進 社

東京法令出版 株式会社

株式会社 図書文化社

株式会社 日 本 標 準

株式会社 浜 島 書 店

株式会社 文 溪 堂

阪」③全図協・渡部竜士専務理事。

各地区の活動としてキャッシュレス化の動向、教師用書公費化の事例等を報告。来年2月の教材フェスティバルのさらなる集客に向けた企画を確認。総会前に、全図協・渡部専務理事による「次期学習指導要領の動向＋αと教材業界への影響・私たちの可能性」と題する講演会を開催。

◆群馬県協会（狩野正樹会長）

研修会や全図協事業を周知

①7月23日、②渋川市「伊香保温泉 福一」・北関東ブロック「つながるセミナー」や全図協事業について周知。

役員改選を行い、三役は留任。

◆愛知県協会（植松雅範会長）

役員改選、新会長に西川友章氏

①7月23日、②名古屋市「サイプレスガーデンホテル」。

安定した協会運営のために来年度から年会費の増額を承認したほか、学校徴収金のキャッシュレス対応について情報交換。

役員改選を行い、新会長に西川友章氏を選任。

◆神奈川県中学協会（宮台賢一郎会長）

産学連携事業について意見交換

①7月24日、②海老名市「海老名市文化会館」、③東海大学・朝倉徹教授、全図協・渡部竜士専務理事。

全図協の事業報告や保護者負担軽減による教材備品化への現場への悪影響などについて

情報交換。県協会主催の研修会企画について協議。総会後に、朝倉教授と渡部専務理事による講演と、産学連携事業として日本教材学会で企画している東海大学の学生を対象とした教材イベント（教材展示、教材講座等）の実施に向けて意見交換。

◆千葉県協会（上杉浩司会長）

役員改選、新会長に細田晃裕氏

①7月25日、②千葉市「ポートプラザちば」、③全図協・渡部竜士専務理事。

次年度も自主基準の遵守、知的財産権の認識強化、自主的安全パトロールの実施等を事業計画に。役員改選を行い、新会長に細田晃裕氏、小学部長に鈴木宜充氏を選任。

総会前に、全図協・渡部専務理事

による「次期学習指導要領の動向＋αと教材業界への影響・私たちの可能性」と題する講演会を開催。

①7月25日、②板野郡「サンライフ北島」。

◆徳島県協会（井上哲也会長）

学校現場での諸課題について情報交換

教師用書の公費化に関する県内での事例を共有。学校でのFAXの活用状況やキャッシュレス決済等の現状について情報交換。



千葉県協会

残暑お見舞い

青葉出版株式会社

株式会社光文書院

株式会社学宝社

株式会社秀学社

株式会社教育同人社

株式会社新学社

◆東京都中学協会（依田誠会長）

総会前に情報交換会を実施

① 7月27日、② 新宿区「協会の会議室」、
 図協・渡部竜士専務理事、穴戸亮太次長、
 真衣職員。

総会前に、情報交換会として、教育現場のICT化への対応、各自自治体での教材費の公費化の動向や集金代行システムの導入状況等について情報交換。



東京都中学協会

＝都道府県協会 会員だより＝

☆代表者・商号・住所変更のあった会員☆

＜代表者変更＞

埼玉県・・・(株)小山日進堂（所沢市）

新代表・小山勉

東京都中学・・・(有)隅田教材（日野市）

新代表・城所史恵

宮崎県・・・片桐書店教材部（日向市）

新代表・浜端広海

宮崎県・・・(株)学教（宮崎市）

新代表・森誠樹

＜代表者・商号変更＞

千葉県・・・明成教材

→(株)川田明成教材（市原市）

新代表・川田和則

宮崎県・・・(株)塩屋教材

→(株)日本未来施設教材（都城市）

新代表・塩屋義浩

☆退会社☆

山形県・・・大宮教材（南陽市）

大阪府中学・・・(有)学之友社（大阪市）

* * * * *

編集後記

夏休みの間、子どもが学校から持って帰ってきた植木鉢に、毎朝起きると水をやっていました。今年の植物はホウセンカです。日中に葉がしおれて夕方にはまた元氣を取り戻している様など、世話をしながら観察しているようです。

さらに今年は、昨年学校で育てたミニトマトが楽しかったから「また育てたい」と言うので、苗を用意しました。毎日の水やりはもちろん、弱った葉を取り除いたり赤くなった実を収穫したりと、楽しそうに世話をしています。

学校で経験したことが、またやってみたいという気持ちを生み、学校から離れた実生活でも自分から行動することにつながっているのは、とても良いことだと感じます。そんな成長をうれしく思いながら、次々と色づいていくミニトマトの実を眺めています。

（み）

【お知らせ】

日本教材学会 第38回研究発表大会

□開催日 2026年10月17日(土)～18日(日)

□会場 聖徳大学 7号館

□主な内容（予定）

・各発表（自由研究発表、研究プロジェクト発表）

・シンポジウム

【テーマ（仮）】

学校用教材を取りまく現状とこれからの姿を探る
 一次期学習指導要領の方向性を踏まえて一

第1部 基調講演

第2部 ディスカッション

【登壇者】

基調講演・総括：岩岡寛人 氏

（文部科学省初等中等教育局教育課程課学校教育官）

コーディネーター：朝倉 徹 氏（東海大学教授）

シンポジスト：

菊地聖子氏（松戸市立松ヶ丘小学校校長）

長澤佑亮氏（沼津市立大岡中学校教諭）

市川洋子氏（日本教材学会会長代行・

敬愛大学教授）

そのほか、教材関係者、大学院生を予定

※登壇者は変更になる場合がございます。

▽ 申し込み、内容等の詳細はこちら ▽

＜日本教材学会ホームページURL＞

<https://kyozai-gakkai.jp/studies/tournament37/>

皆さまのご参加お待ちしております。